公益社団法人
日本語教育学会 チャレンジ支援委員会 明日のための学びの場（通称：あしたば）

「企業の言語学習プログラムをどうデザインするか：多言語・多文化組織メルカリにおける CEFR の活用と『歩み寄り』の実践」開催報告

日　時：2026 年8月22 日（土）14:00～16:00　＊Zoomによるオンライン開催
14:00～15:00 講演「企業の言語学習プログラムをどうデザインするか：
多言語・多文化組織メルカリにおける CEFR の活用と『歩み寄り』の実践」
講師：親松雅代氏
15:00～15:30 参加者同士の意見交換（ブレイクアウト・ルーム）、全体共有
15:30～16:00 質疑応答　（参加者：60 名）



今年度の「あしたば勉強会」では、株式会社メルカリ Organization & Talent Development/ Language Education Team の親松雅代氏を講師としてお迎えし、企業の多言語・多文化環境における言語学習プログラムの設計と実践をテーマにご講演いただきました。CEFR の理念に基づいて学習者を「社会的存在（Social Agent）」として捉えること、また、学習者と周囲の人々がともに「歩み寄る」という視点から、日本語教育が果たしうる役割について、参加者の皆様とともに考えました。

勉強会は、講演 60 分、参加者同士の意見交換と全体共有 30 分、質疑応答 30 分という構成で行われました。講演後のブレイクアウト・ルームでは、Google スライドを活用し、参加者が講演を受けて感じたことや、それぞれの現場で抱える課題について意見を交わしました。講演や意見交換を通して、言語教育をめぐる近年のパラダイムシフトを踏まえ、語学力そのものだけを学習目標にするのではなく、具体的な行動目標を設定すること、学習者の背景や置かれた環境に目を向けること、さらに、教育環境全体をコーディネートする力を育むことの重要性を改めて認識しました。

勉強会後のアンケートでは、親松氏のご講演について、ほとんどの方から「大変満足」「満足」という回答をいただきました。ブレイクアウト・ルームでの意見交換や質疑応答についても、8 割以上の方が「大変満足」「満足」と回答されました。自由記述では、「企業における日本語教育を、単なる語学教育ではなく、組織内のコミュニケーションや『歩み寄り』、さらにコンサルティングへと広げて捉える視点が大変興味深かった」「自分の実践との違い、学べる点などを確認できた」「普段は知り合えない方々と意見交換ができてよかった」等、多くのお声をいただきました。一方で、「もう少し質疑応答の時間がほしかった」「具体例をもっと知りたかった」とのご意見も寄せられました。



本企画が、企業における言語教育と組織内コミュニケーションとの関係を、それぞれの実践に引きつけて考える機会になったことがうかがえます。いただいたご意見を、今後の企画内容や時間配分、意見交換の進め方の改善に生かしてまいります。

改めて、ご講演くださった親松雅代氏と参加者の皆様にお礼を申し上げます。

（文責：岩下真澄）

チャレンジ支援委員会：佐々木渉・守時なぎさ・岩下真澄
＜本件に関する問合先＞ **公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会** E-mail challenge@nkg.or.jp